



2021年5月11日

各 位

会社名 日本 KFC ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 近藤 正樹
(コード番号 9873 東証第2部)
問合せ先 取締役専務執行役員 金原 俊一郎
TEL.(045)-307-0605

2021年3月期通期業績予想の修正及び 営業外費用、特別損失(連結)の計上に関するお知らせ

当社は、2020年11月11日に公表しました2021年3月期(自2020年4月1日至2021年3月31日)の通期業績予想の修正及び連結決算における営業外費用、特別損失の計上につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2021年3月期通期連結業績予想の修正(2020年4月1日~2021年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	86,500	6,000	未定	未定	未定
今回修正予想(B)	89,652	6,354	5,498	2,805	125円50銭
増減額(B-A)	3,152	354	-	-	
増減率(%)	3.6	5.9	-	-	
(ご参考) 前期実績(2020年3月期)	79,634	4,785	3,252	1,533	68円62銭

2. 業績予想修正の理由

2021年3月期の通期連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の収束時期の見通しが立たず、合理的な業績予想の算出が困難なことから、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益の業績予想を未定としておりました。

主力のケンタッキーフライドチキン(KFC)においては、強みであるテイクアウトやドライブスルー、これらに加えてデリバリー導入店舗の拡大、ブランド力向上のための店

舗改装等、諸施策に取り組みました。これら諸施策を着実に取り組んだ結果、2021年3月期の月次業績では、既存店売上高が前年比113.6%、既存店客数が同104.1%、既存店客単価が同109.1%と年間を通じて好調に推移したこともあり、売上高及び営業利益は前回発表予想を上回る見込みとなりました。

一方、当社の持分法適用関連会社においては、依然として新型コロナウイルス感染症の収束時期の見通しが立たないことから、厳しい市場環境が続いております。2021年1月に首都圏及び関西圏等へ再度発出された緊急事態宣言は3月に解除されたものの、翌4月には東京都、大阪府等を対象に3度目の緊急事態宣言が発出されたことに伴い、引き続き外出自粛、営業時間短縮の影響等が生じております。当社グループでは、当該状況による影響は2022年3月期以降も一定期間残るものと認識しております。

この結果、2021年3月期通期の売上高は896億52百万円（対前年増減率12.6%増）、営業利益は63億54百万円（同32.8%増）、経常利益は54億98百万円（同69.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は28億5百万円（同82.9%増）となる見込みです。

なお、期末配当予想につきましては、本件業績予想の修正による見直しは行いません。

3. 連結決算における営業外費用（持分法による投資損失）の計上

2021年3月期第3四半期連結累計期間において、持分法による投資損失1,130百万円を計上していましたが、依然として新型コロナウイルス感染症の収束時期の見通しが立たないことから、当社の持分法適用関連会社であるBamboo (Thailand) Holding Pte. Ltd.及び株式会社ビー・ワイ・オーにつきましては、売上高の減少等の影響が生じており、厳しい市場環境が続いております。

これに伴い、2021年3月期第4四半期連結会計期間において、持分法による投資損失144百万円を計上することとなりました。この結果、2021年3月期の連結決算において、持分法による投資損失1,275百万円を営業外費用に計上することとなりました。

(持分法による投資損失の内訳)

(単位:百万円)

	出資時から 2020年3月期	2021年3月期			出資時から 2021年3月期
	累計損益	第3四半期 累計損益	第4四半期 計上損益	2021年3月期 累計損益	累計損益
Bamboo(Thailand) Holding Pte. Ltd.	913	▲474	▲55	▲530	383
株式会社ビー・ワイ・ オー	▲2,060	▲655	▲89	▲744	▲2,805
合 計	▲1,146	▲1,130	▲144	▲1,275	▲2,421

なお、Bamboo (Thailand) Holding Pte. Ltd.は当社連結子会社である Fast Restaurant International Pte. Ltd. (投資持株会社) を通じて出資しており、四半期毎に公正価値評価を実施しております。

4. 連結決算における特別損失（減損損失）の計上

2021年3月期第3四半期連結累計期間において、減損損失200百万円を計上していましたが、収益性の低下が見られた店舗等について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づく回収可能性を検討した結果、2021年3月期第4四半期連結会計期間において減損損失として100百万円を計上することとなりました。この結果、2021年3月期の連結決算において、減損損失300百万円を特別損失に計上することとなりました。

(注) 業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上